

日本新聞製作技術懇話会
広報委員会編集

編集人 辻 裕史
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8階 (〒100-0011)
電話 (03) 3503-3829
FAX (03) 3503-3828
<http://www.conpt.jp>

CONPT

CONFERENCE FOR NEWSPAPER
PRODUCTION TECHNIQUE JAPAN

VOL.36 No.5
2012.9.1
(通巻 215 号)

日本新聞製作技術懇話会
会報 (隔月刊)
(禁転載)

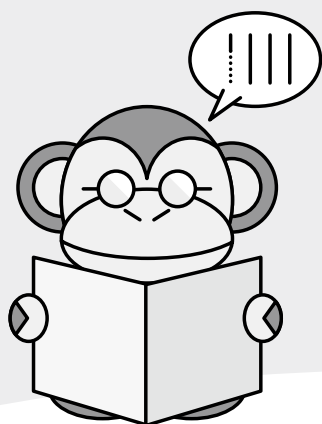
JANPS

JAPAN NEWSPAPER PRODUCTION SHOW

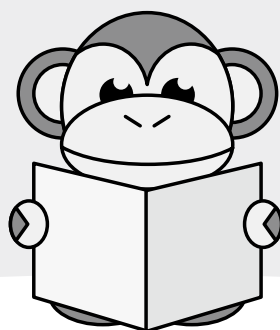
2012

第21回

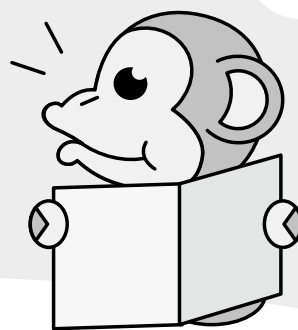
新聞製作技術展



read



look



report

読む 見る つたえる

今あたらしい新聞技術

出展内容速報

目次

JANPS2012 開幕迫る	3
----------------	---

◆出展社と出展内容

日本新聞協会	3	東京機械製作所	11
朝日新聞社	3	東芝ソリューション	11
産業経済新聞社	4	東洋インキ	11
日本経済新聞社	4	東洋電機	12
日経統合システム	4	東和電気工業	12
毎日新聞社	4	ニッカ	12
読売新聞社	5	日本アイ・ビー・エム	12
インテック	5	日本アグフア・ゲバルト	13
イワタ	5	日本新聞インキ	13
岡本化学工業	5	日本電気	13
金陽社	6	日本ボールドウィン	13
クオード・テック・インク日本支店	6	パナソニック SS インフラシステム	14
クロスデザイン	6	ビジュアル・プロセッシング・ジャパン	14
KKS	6	フジオ産業	14
コスモテック	7	富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ (旧: 富士フィルムグラフィックシステムズ)	14
ゴスグラフィックシステムズジャパン	7	富士通	15
コダック	7	プロスパークリエイティブ	15
コニカミノルタビジネスソリューションズ	7	方正	15
サカタインクス	8	三菱重工印刷紙工機械	15
CCI ジャパン	8	三菱製紙	16
ジック	8	明和ゴム工業	16
清水製作	8	モトヤ	16
ストラパック (旧: ニチロ工業)	9	モリサワ	16
西研グラフィックス	9	千葉大学大学院融合科学研究科小林・青木・今泉研究室	17
セイコーアイ・インフォテック	9	千葉大学大学院融合科学研究科北村研究室	17
第一工業	9	千葉大学大学院融合科学研究科小関研究室	17
大日本印刷	10	東京工芸大学工学部メディア画像学科	17
田中電気	10	東京電機大学エルゴノミクスデザイン研究室	18
DIC グラフィックス	10	日本プリンティングアカデミー	18
椿本チエイン	10		
東京インキ	11		

CONPTセミナーのご紹介	18
---------------	----

2012年IFRA展ツアーの視察ポイント

新局長に就任して

日本新聞協会 技術コンサルタント	三宅 順	19
産経新聞大阪本社 制作局長	寺塚 良一	21
北日本新聞社 印刷局長	光里 隆	22
山陽新聞社 執行役員印刷局長	片山 淑雄	23
西日本新聞社 執行役員製作センター長	池島 利宣	24
毎日新聞東京本社 制作技術局長兼物流本部長	中村 詔吏	25
宮崎日日新聞社 取締役印刷局長	岩佐 克彦	26
読売新聞東京本社 取締役制作局長・システム担当	五阿弥宏安	27
琉球新報社 取締役印刷局長	池間 聡	28

JANPS準備部会報告	29
-------------	----

第36回国内研修会記	30
------------	----

第110回技術懇談会記	30
-------------	----

JANPS会場見取図	32
------------	----

●表紙写真提供:「JANPS 2012 ポスター」

日経西日本製作センター・編集部画像デザイングループ課長 田尻 貴雄

●表紙製版: (株)ディリースポーツプレスセンター

●組版・印刷: (株)ディリースポーツプレスセンター

JANPS2012 開幕迫る

読む 見る つたえる 今あたらしい新聞技術

第21回新聞製作技術展(JANPS2012)は、日本新聞協会主催、日本新聞製作技術懇話会協賛により、11月27日(火)から29日(木)までの3日間、東京国際展示場(東京ビッグサイト)東6ホールにおいて開催されます。

出展社は新聞社関係7社、日本新聞製作技術懇話会加盟社34社、非加盟社13社に、新たに6研究機関が加わり、統一テーマ「読む 見る つたえる 今あたらしい新聞技術」のもと、最新の新聞製作関連機器・システムを展示、実演いたします。

出展各社の不断の努力による研究、開発成果にご期待下さい。

◆会期と会場時間

27日(火) 午前10時 ～ 午後5時 午前10時から開会式を行います。

28日(水) 午前10時 ～ 午後5時 午後5時から「CONPTツアー合同再会パーティー」を開催します。(31ページ参照)

29日(木) 午前10時 ～ 午後4時

日本新聞協会

新聞協会では、毎回JANPSで日本の新聞界のトレンドを紹介しています。今回は、新聞協会技術委員会下部組織・新聞品質研究会の研究成果を報告します。同研究会は、日本の新聞品質を支える製作技術に関し、CTP、高精細網、高濃度インキ、モニターブルーフ、減斤紙を主要テーマに掲げ、カラー紙面品質向上、最新技術とNSAC(日本新聞アドカラー)の検証を柱に活動をしています。JANPSでは、開催時期までに行われるテスト印刷の結果と研究内容をパネルや実物紙面を掲示して説明します。そのほか、近年各社で発行されている子ども向け新聞など、小・中学生向け紙面・記事強化の取り組みや、東日本大震災を受けて新聞・通信社間で広がりを見せる「災害・障害発生時相互援助協定の概況」について図や表を用いて紹介します。

朝日新聞社

「紙もデジタルも元気な朝日!」をコンセプトに、品質関連の展示のほかに近年、新聞業界の課題であるコスト削減や環境関連の取り組みを紹介します。

朝日新聞社では、iPadにて「朝日新聞デジタル」の実機の体験コーナーを設置するほか、モニターブルーフでの他社との設備の共用化によるコスト削減の取り組みを展示します。環境関係では、川崎工場に設置した太陽光発電のサイネージを展示します。

朝日プリンテック社では、INCQC(国際新聞カラー品質コンテスト)を3工場で受賞するなど高い技術力と品質をベースに、総合印刷会社をメインに据えた展示をします。ワンストップサービスや折不良検出装置、品質コンサルティング、FMスクリーニングのほか、当日の発表となりますがパートナー社とのコラボによる展示をいくつか予定しています。

産業経済新聞社

今回の出展テーマは「新聞技術の新展開」。昨年度「新聞協会賞(技術部門)」を受賞したASURAの全容を体感して頂く。さらにデジタル印刷の可能性を探り、来場者と夢ある未来を語り合いたいと考えています。

□出展概要

◇新聞製作システム「ASURA」

実機のデモンストレーションを行いながら「ASURA」を紹介。

◇インナーコミュニケーションサポート

広報誌・学報紙をデジタル印刷とともに紹介。

◇特殊インキ

商業印刷で使用する特殊インキを新聞用輪転機で検証しサンプルを展示。

日経統合システム

当社は、日経グループを中心にITインフラを預り、24時間365日ノンストップで運営・管理してしてきました。そこで培ったノウハウを活かし(1)データセンターサービスを中心としたソリューション。特にBCPにフォーカスしたサービスの紹介。(2)新聞・メディア業界向けASPサービスを出展します。常にセキュリティとお客様業務の「辛い所に手が届く」サービスを心がけています。是非、実演デモの場でご確認下さい。

【出展予定ソリューション】

- BCPに強いデータセンターサービス
- クラウド型セキュアホスティングサービス
- メルマガASPサービス
- オンライン・ストレージサービス
- セキュアにWebフォームの作成・公開ができるASPサービス「日経Tiara」

日本経済新聞社

【印刷工場への取り組み】

印刷工場での環境保全対策、節電・省資源対策の取り組みと成果について事例をパネルで報告します。特に東日本大震災以降の電力需要が逼迫するなかで取り組んだ夏季節電策と具体的な効果についてもご紹介します。

【受注紙の紹介】

パノラマ印刷や官公庁の広報、海外紙などの各種受注紙について、サンプル紙を展示するとともに自社内での組版から印刷までの工程を紹介します。

【日本経済新聞電子版】

2010年3月に創刊した日本経済新聞電子版のサービス概要をパソコンやタブレット、スマートフォンで紹介。電子版の発行を支えるシステム群やデータの流れについてもパネルで説明します。

毎日新聞社

テーマを「新聞社の業務改善への提案」として、毎日新聞社が持つシステムのうち、他の新聞社様で容易に導入可能で、業務改善に役立てていただけるものをご紹介します。

■**素材管理システムMinerva** 「紙も電子も」の時代に新聞社が生き残っていくために、必須な素材管理システムです。各社ごとに、最適な運用フローの構築が可能です。

■**販売管理システム** 多様な販売業務を整理・分類し、約20のモジュールに分けて構築しました。各社で必要な機能のみを選択して、システム構築を行えます。

■**TAP-i** 新しいニュース媒体TAP-iについて、サービス内容、会員管理、購読料決済システムを展示します。同様のサービスの導入に向けて参考にいただけます。

■**毎日フォント** 読みやすさで、高い評価をいただいています。詳細にご紹介します。

読売新聞社

テーマ「読売新聞のエコな取り組み」として実演、パネル展示を行います。

① 編集端末のシンククライアント化

現在、編集端末や組版端末の「デスクトップ仮想化」について、実証実験を進めています。会場にシンククライアント端末を置き、実際の動作を公開します。

② CTPサーバーセンター化と共通インターフェイスの実現

各工場に設置されていたCTP製版管理サーバーを府中システムセンター1か所に集約し、CTPエンジンとのインターフェイスも共通化させ、コスト削減を実現するとともに利便性を向上させました。この取り組みをパネルで紹介します。

③ 紙面品質向上とインキ削減

高精細スクリーン、GCR、高濃度インキによる紙面品質向上とインキ削減への取り組みを、印刷サンプルとパネルで紹介します。

イワタ

【イワタ新聞製作プラグイン】

InDesign用初の汎用新聞組版製作・素材管理プラグイン「イワタ新聞製作プラグイン」は普及率の高いインデザインに、新聞組版を効率的に行う機能をプラス、専用組版システムなどの導入にかかる膨大なコストをカットいたします。

【イワタUD新聞書体】

ユニバーサルデザイン(UD)の視点に基づいた新聞本文用書体「イワタUD新聞明朝」「イワタUD新聞ゴシック」を使用し組版する事で、見やすく、読みやすい新聞紙面製作をサポートいたします。

【イワタ外字エディタ for U-PRESS】

専門的な知識や、専用のコンピュータを使わず、Windowsマシン1台で、簡単に高品質なTrueTypeフォント、OpenTypeフォントを作成することができます。新聞製作に日々必要な外字作成に威力を発揮する、プロフェッショナルのための外字エディタです。

この他にも最新の採用事例や新書体をご紹介します。

インテック

インテックでは、旧日本システム技術の製品をベースにインテックのソリューション技術を融合した製品のご紹介を行います。

◆EcoProof（ソフトプルーフ）

より使いやすく操作性を充実させた最新版EcoProofの展示を行います。ソフトプルーフの課題である、現場環境の光源対策としてLED光源を使った色見台(サカタインクス社製)を利用することで、安定した品質管理とランニングコスト低減のご提案をいたします。

◆ADAMS（広告管理システム）

ADAMS最新バージョンの展示と広告関連パッケージのご紹介をいたします。

◆インテックソリューションの紹介

クラウド構想のご提案と、マルチデバイスを利用した新たなビジネスモデルのご紹介をいたします。

岡本化学工業

岡本化学の開発理念は

「エコノミカルを追求すると、エコロジーに通じる」岡本化学はこれを「**エコノロジー効果**」と考えます。

この理念に基づいてご提案する“DTN-1”システムとは以下の通りです

◎“DTN-1”システムの開発コンセプト

廃棄物を削減するより、廃棄物を発生させない

◎“DTN-1”システムがお約束する3つの「エコロジー効果」

1. 「資材コスト」の低減…低phガム1液処理、現像液不要
2. 「廃液処理コスト」の削減…新規設備不要
3. 「環境負荷」の低減…廃液量を5分の1以下に低減

*期間中、実機による実製版をご覧ください

金陽社

当社は、印刷用ブランケットとゴムロールの製造販売会社として創業80年以上にわたって蓄積した経験とノウハウを生かし、印刷現場で発生する様々なトラブルを解決するためのお手伝いをさせていただいております。

JANPS2012では当社の豊富な製品ラインナップを通して、代表的な印刷トラブルを解決する為の提案を行いたいと考えております。

『ブランケット』着肉改善、紙粉対策、紙送り改善など

『ゴムロール』発熱対策、版エッジ傷対策、外径安定など

『その他』高品質の洗浄剤や保護剤。パイプの目詰まりが無く安全なハンドクリーナーなど。

現在お困りのことがございましたらお気軽にご相談いただければ幸いです。皆様のご来訪を心よりお待ちしております。

クロスデザイン

★—クロスメディア対応/電子新聞—★

大手一般紙数社にも導入が進む、クロスメディアクラウドサービス「LEPUS」をご紹介します。LEPUSは、新聞記事をWebブラウザから登録することで、自動的にデータベース管理され、新聞紙面のレイアウトへ使用することができます。同様にWebや電子新聞へも展開できるため、作業負荷を増やさずに様々なメディアへ展開していける唯一のソリューションです。

★—編集・生産の大幅コストダウン—★

様々な人が絡み合う新聞製作ワークフローが、コンテンツマネジメントシステムを使うことで劇的に効率化されます。従来課題になっていたシステム費や外注費を削減し、経営のスリム化を実現します。

クォード・テック・インク日本支店

印刷機周辺機器装置の総合メーカーである弊社は、今回、新聞輪転機向け色調コントロールシステムAccuCamをメインにご紹介致します。この製品は、産経新聞北摂工場様に御採用頂き、NSAC標準カラーを達成し、現在北摂工場が産経グループで最高のカラー品質を生産しており、全産経新聞印刷工場が達成すべきカラー基準工場となっております。

AccuCamは、 $L^*a^*b^*$ に基づく特許技術の6チャンネル「スペクトラルセンサー」を採用し、印刷紙面上の絵柄を測定します。このシステムは又、インクラチェットを自動制御可能で最適なインキ量の供給を実現します。オペレーターの色調整作業を最小限にするだけでなく、複数の工場、印刷機、オペレーターによる色調整の差を無くし安定かつ高品質な紙面を提供致します。

KKS

手作業束作成の自動化を目指した宛名札添付装置付き小束作成装置を展示、実稼働いたします。

■宛名付小束作成装置 『A-FS200』

1部から正確な部数を高速で排出し宛名札を当該束に添付します。宛名札情報はSDカードを媒体とし取り込みます。下流に八折装置、段ボール下敷き、包装結束機を組み合わせると全自動化が可能です。

■自動給紙搬送車 『AGS-800』展示

- ・D巻き以下の小型サイズ(800L×890w)のため紙種に関係なく嵩上げ台が不要。
- ・独自のシンプル、軽量の構造によりメンテナンス費用の大幅な削減が実現。

■『AGV-Type300』展示

- ・工事が簡便な磁気テープ誘導方式。
- ・巻取り紙の自動装着、残芯回収機能付きのフル機能タイプで、コンパクトな走行性能。

コスモテック

コスモテックは、お客様の満足を第一に考えます。

当社の指針である「お客様第一主義」を実践し、お客様の真のパートナーとして末長くご愛顧頂けるよう、製品の品質はもとより、より良いアフターサービスを提供していく所存です。

今回のJANPS2012では、私たちが今、自然環境に出来る事と題して、NEW水溶性廃液処理装置FRIENDLYの展示と実演を予定しています。

この製品は、水溶性廃液であれば、さまざまな廃液に対応が可能です。是非、当社のブースでじっくりとご覧ください。

<展示予定製品>

- ・FRIENDLY CT-AQ5H
- ・ML加湿装置 MLプリンセス
- ・ML加湿装置 MLデュアルソロ

コダック

コダックは、新聞製作工程における効率化、高付加価値化を実現する多彩なソリューションをご紹介します。

◆**インクジェット プリンティング ソリューション**
ドイツのアクセルスプリンガー社に導入されたKodak Prosper S30インクジェットプリンティングシステムで実際に可変印刷された新聞のサンプルを紹介し、新聞印刷におけるインクジェットの新たな可能性を提案します。(印刷サンプル展示のみ)

◆ワークフロー ソリューション

高度な自動化機能で定評あるワークフローシステムKodak Prinergy、Prinegyのソフトウェアモジュールのひとつで高品位なカラーマネージメントを実現するKodak ColorFlow、校正業務の効率化に貢献するKodak InSiteなどをデモを交えてご紹介します。

◆**新聞輪転に最適な高耐刷性を備えたコダックの新聞印刷用サーマルCTPプレートのラインアップ**をご紹介します。

ゴスグラフィックシステムズジャパン

パネル展示を中心に、ゴスの幅広い製品を紹介します。印刷製品はより良い品質、より低価格でという基本的な市場要求に加え、多種少量化の流れがあり、他方ではコスト削減のために、生産の集中化の流れもあります。新聞紙と言う形態も、このような流れに順応し、新たな印刷製品を市場に提案していかなければなりません。

全幅機では、最新のカラーライナーCPS、ニュースライナー、半裁機ではユニバーサル、マグナム、SSCそして、ドライヤーを含む付属機器の製品群から、セミコマースなどの新たな印刷製品を目指す印刷業の皆様にもマッチした印刷機とその組み合わせをご提案します。

新聞印刷機から商業印刷機、パッケージ印刷機、フィニッシング機器と、印刷関連機器を幅広く扱っているゴスの製品と印刷技術は、皆様の新たな挑戦をサポートします。

コニカミノルタビジネスソリューションズ

弊社では「ワンストップサービス」を理念として掲げ、印刷市場向けの幅広い製品を取り扱っております。JANPS2012では、以下の実演展示を予定しております。

【ケミカルレスCTPシステムBLUE EARTH】

環境経営を推進するための有効な手段のひとつとして、地球環境にやさしいCTPシステムです。アルカリ現像液一切不使用、露光後の処理はガム洗浄のみのシステムです。

【bizhub PRESS C7000】

71枚/分のフルカラーPODシステムです。オプション取付により、製本・折などの様々な後加工処理も可能なため、プロユースから印刷物の内製化まで幅広い用途で運用いただけます。

【KIP 7100】※桂川電機工業(株)製

A0サイズの出力が可能な、トナー式モノクロプリンタです。新聞紙面をはじめとした大判紙面の校正用途に使用可能です。

サカタインクス

「フレッシュな提案力で変革に応えるサカタインクス」を出展コンセプトとして、新聞社の工場経営に重要な役割を果たす、ソリューションをご提案いたします。

■高濃度プロセスインキ NEWS WEB MASTER

「エコビュア ルーチェ」

高濃度化の時代に応える高性能インキのご提案

■「INX 新聞業界スクール」の全容

■「カラーマネージメント」

印刷診断やCMSコンセプトづくりのご支援に関するご提案

■ウマインキドクターブレード自動洗浄装置「I.D.W」

現場の作業を軽減し、廃液・ウエス等を削減する画期的アイテム

■LED標準光源

平均演色評価数Ra95以上を実現した業界発の純国産LED標準光源装置

■インテック広告管理システム「Adams-Lite」

新聞広告システム「Adams」をベースに、「申込管理」「素材管理」「掲載管理」等主要な機能だけに集約した低価格パッケージ

■ソフトブルーフ「Eco Proof」

サカタインクスのCMS技術とインテックの画像技術を融合したソフトブルーフシステム、LED標準光源との組み合わせで最適な色評価観察環境をご提案

ジック

自動仕分けシステム用バーコード読取り

高性能な読取り、尚且つ万が一の不具合発生時に迅速に対応できるパラメータバックアップ機能を標準搭載したシステムと機種。

OPS490 2重化システム

CLV490シリーズ

◆AGVアプリケーション向けセンサ

コンパクトな筐体で高性能・フレキシブルな機能を搭載した高性能レーザスキャナセンサ。

セーフティレーザスキャナ

◆防護センサ

セーフティーライトカーテン

セーフティーカメラセンサ

FlexiSoftコントローラ

◆画像認識

IVC-3D

CCIジャパン

最新のCCI NewsGate 3を紹介

スマートフォンが爆発的に普及するなど、デジタル技術はさらに深化しています。この新たなメディア環境に向けて、世界中の報道機関が対応を急いでいます。ソーシャルネットワークとの融合も含め、多様なコンテンツを多様な媒体に向けて発信し続ける、効率的な編集機能が求められています。

世界的なメディアで利用されるCCI NewsGateは、前回のJANPS時のバージョン2から3へ大幅に機能をアップ。洗練された画面から、それぞれのニュースがどのように異なるメディアに発信されているのかを、レーダースクリーンのように見渡すことができます。

数百人規模の地方紙から数千人のメディア複合体まで、単独で、あるいはデータセンター方式で、常に進化する編集局を支えるCCI NewsGateの最新の機能をご紹介します。

清水製作

◆ブランケット洗浄装置 SSBC-T10

4×1輪転機用に開発し上下2胴を1台の洗浄ユニットで同時に洗浄し「イニシャルコストの低減」を実現し、また1本の洗浄布の表裏両面でそれぞれ1胴ずつを洗浄し「ランニングコストの大幅削減」を実現しました。

※実機稼働展示

◆その他洗浄関連製品

ガイドローラー洗浄装置(SGRC)、グリッパー洗浄装置(SGC) etcについてもご紹介します。

◆刷版仕分け装置

CTP用ビジョンパンチベンダーとの組合せで既に150台以上の納入実績を誇る刷版仕分け装置の中で新たなラインアップとして開発致しました4×1輪転機用刷版(1Lサイズ版)用仕分け装置についてご紹介いたします。

ストラパック(旧:ニチロ工業)

ニチロ工業株式会社はストラパック株式会社と合併し、2012年10月1日より「ストラパック株式会社」となります。これを機に社員一同新たな決意をもってサービス向上に取り組んでまいりますので、何卒、これまでと変わらぬご愛顧を賜りますようお願いいたします。

本展示会では下記新型2機種を含む、新聞発送ラインの実稼働展示を致します。

■NCS-6X型(仮称) カウンタースタッカー

NCS-5型(搬出部ターン式)と同じ高さの中間ターン式カウンタースタッカー。機構を全面的に見直し、高スペックとシンプルさを両立させました。

■MPS-1型 新聞郵送帯封機

新聞郵送のための折り作業・帯封作業を自動化。コンパクトな外見が特長です。2媒体を重ねて帯封する機能もあります。

セイコーアイ・インフォテック

セイコーアイ・インフォテックは、「TCO削減」及び「業務改善」を実現する新聞業界向けプリンターシステムをご提案いたします。

■モノクロ大刷り機「Teriostarシリーズ」

高耐久・高生産・省設置スペースを実現した A1対応 新聞向けモノクロ大刷りプリンターです。

給紙段数や使用用途に応じた幅広いラインナップで、お客様より高いご評価をいただいております。

■TIFF-RIP V4 (Option)

複数台のプリンターを制御し、代替印刷やPV平均化など、モノクロ大刷り機「Teriostarシリーズ」をより便利に活用するためのソリューションです。

西研グラフィックス

◆「西研65型オフセット輪転機」

国産4×1オフセット輪転機の先駆けとして2002年に開発、これまでの10年間で国内外合せて12社・24セットを納入致しましたベストセラー機です。

高品位かつ軽量・コンパクトでランニングコスト低減に優れた西研65型オフセット輪転機4×1機は、今、新聞業界の輪転機導入計画で最も関心の高いオフセット輪転機となっています。

新たに開発した給紙装置 (SR50) もこれまでの高い技術実績と最新のテクノロジーを備えており、定評ある折機と共に西研オフセット輪転機の評価を高めています。

◆「新聞搬送CSGキャリア (MarkⅢ)」

新聞搬送キャリア30年以上の経験と国内最大の納入実績を誇る、最新CSGキャリア (MarkⅢ) を御紹介致します。安定性と耐久性を追及し多様化する新聞搬送システムに高いご評価を頂いております。

併せてグリッパーによる紙面汚れ対策新製品グリッパークリーナー等の開発により、より使い易いシステムになっております。

第一工業

第一工業(株)は、発送仕分システムに関し多くの経験と実績がございます。下記機種を始めとする多種多様な仕分装置を紹介致します。

◆ウイングソータ◆

長年に渡りご愛顧頂いておりますが、安心と信頼を重ね、全国の新聞社へ圧倒的な実績を誇る仕分装置です。

◆ウェーブソータ◆

ウイングソータより更に仕分能力をUPさせた仕分装置です。仕分としての用途以外にも、合流・分岐装置としてもレイアウト可能です。

その他、一般物流業界でも好評を頂いておりますクロスベルトソータや、書籍仕分装置サンフラップソータといった最新の機種も併せてご紹介致します。ぜひ弊社ブースへお立ち寄り下さい。

大日本印刷

大日本印刷株式会社(以下:DNP)は、電子書店とオンライン書店の機能を統合したハイブリッド型総合書店サービス「honto(ホント)」を開発しています。

この開発や運営の経験を活かして、PCやモバイル端末でも新聞を購入・閲覧できる「電子新聞販売スタンド」を開始予定です。

新聞紙面をそのまま表示するイメージタイプ、紙面に対応しながら小さい画面でも読みやすいテキストタイプの2つを用意します。

当ブースでは、サービスの概要と、DNPが考える新聞表示を紹介します。

本格的なデジタル新聞流通チャンネルを目指し、新たな読者開拓を模索するため、価格体系、サービス体系について、ぜひとも皆さまのご意見をいただきたく思います。

当ブースへのご来場を心よりお待ちしております。

DICグラフィックス

DICとザ・インクテックの事業統合で生まれた当社は、2012年10月で4年目を迎えました。

DICグループの経営ビジョンである

「Color & Comfort by Chemistry」に基づき、印刷インキとその関連製品を通じて、社会に彩りと快適をご提案します。

■高濃度インキ「PROUD」

紙面品質向上、印刷のトータルコスト削減に貢献できる環境対応型高濃度インキ「PROUD」のご紹介。

■コダック新聞サーマルCTP

優れた印刷適正の「ExThermo TN-NewsII」と、現像処理液不要のノンプロセスCTP「Thermal Direct」のご紹介。

■新聞用エッチ液

環境対応型エッチ液、新製品「Presart News」のご紹介。

■DAY新聞用ブランケット

新製品及びメタルバックブランケットのご紹介。

お客様に価値を感じて頂ける製品群とソリューションをご提案させて頂きますので、当社ブースへ是非お立ち寄り下さい。

田中電気

■自営通信網 5GHz帯高速無線ネットワーク

既存のインフラを使わず、大規模災害時にも業務を止めない自営ネットワークが構築出来ます！

数キロ～十数キロ離れた拠点間を電波干渉の少ない5GHz帯を使用した無線LANで高速に結びます。データはもちろん、音声、HDの映像などの通信もOK！バッテリーと組み合わせて、期間限定や臨時のネットワーク構築にもご利用頂けます。

■800MHzデジタルMCA無線

中継局を介した、広域エリアでの通信が出来ます。IP-VPNでの広帯域通信ネットワークサービスもあり東京-大阪間通話等、遠隔地の通話も可能。災害時の頼れる通信手段です。

■インデント

田中電気ではお客様のニーズに合った、小規模な制御装置などの開発も行っております。

椿本チエイン

今回、椿本チエインは、発送仕分設備の実機による実演に加え、給紙AGVにおける新技術と、新聞社様向けメンテナンス商品を、パネルでご紹介します。椿本チエインブースに、ぜひお立ち寄り下さい。

◆発送仕分設備・クイックソート(実演)

実機による仕分作業を実演します。環境対応の薄厚フィルム梱包にも対応する、エコでやさしい仕分を実感ください。

◆給紙AGV(現行タイプの実機展示)

おかげ様で、1996年の発売開始以来、549台納入させていただきました。蓄積したノウハウに新技術を融合する、次世代に向けた研究開発活動は、パネルでご紹介します。

◆メンテナンスサービス(パネル展示)

夜間・休日に稼働されている新聞社様向けに、予防/予知/改良保全を主眼とし、充実したサービス商品をご紹介します。

東京インキ

東京インキ(株)は、新聞紙面品質の高品位化・経済性および地球環境、作業環境適性をさらに追求した製品のプレゼンテーションとデモ機による稼働状況の展示紹介を行います。

主な出展予定製品

★【クロマ】高濃度新聞カラーインキ

高発色性、経済性、作業適性を追求した高品位インキの紹介。

★無リン中性エッチ液

近年の地球環境保全への取り組みに適應すべくに配慮した製品を紹介

★循環式還元水処理装置

還元水により印刷機の冷却水から赤錆、スケール・スライムを取り除きロータリージョイントの詰まり防止、冷却効率を向上。

★【ジャイロクロス】ブランケット洗浄布

ブランケット上の堆積物を効果的に除去する洗浄液含浸タイプの不織布を紹介。

東芝ソリューション

国内初の本格的な新聞社向けコンテンツマネージメントシステムとしてDynamic CMSを発表させて頂いてから、早くも3年が経過しようとしています。

「DynamicCMS」は、昨年の7月にVer1.0を正式リリースさせて頂くことができ、多くのお客様からの評価を頂戴できるようになりました。

そして、JANPS2012においてDynamic CMSは、さらなる進化を遂げた姿をお披露目したいと思っております。是非、ご来場ください。

◆出展概要

- ・ DynamicCMS 2015 (最新バージョン)
- ・ WebCMS/電子新聞
- ・ タブレットソリューション
- ・ 販売管理システム

など

東京機械製作所

去る7月、米国Newsweb社に第1号機を納入致しました、デジタル印刷機「ジェットリーダー1500」の進化型を実演展示致します。

今回JANPS2012に出展する最新型「ジェットリーダー」は、印刷品質やスピードに関する技術を徹底的に見直し、輪転機メーカー東京機械ならではの「後工程に関する専門技術」を折畳部に投入、高速で、より汎用性の高い折機を持つデジタル印刷機と致しました。

drupa2012をご覧になった多くの新聞印刷関係者、ジャーナリストの皆様から、「ジェットリーダー1500は、給紙から印刷、折畳、搬出まで、すべてTKSのみで構築した、世界で唯一「オールインワン」のデジタル印刷機である」との高い評価を受けました。搭載する技術、部材はすべて信頼の日本製です。

更なる進化を遂げた最新型「ジェットリーダー」を、ぜひご覧下さい。

東洋インキ

東洋インキが提案するインキ、各種省力化機器は、いつの時代も新聞製作に関わる課題解決とイノベーションを実現してまいりました。今回JANPS2012では、①リデュース、②環境対応、③省力化、④低コスト化の4つのテーマで新聞製作におけるプロセスイノベーションを提案します。

【主な出展製品】

- ①紙面検査装置「Toyoassistant」
- ②高濃度新聞インキ
「ヴァンテアンエコー リオ」
- ③カラーUDソリューション
- ④地産地消コンセプトの印刷インキ
「TKNEX NV100ライス」

東洋電機

オンライン宛名紙印刷搭載機と新聞束管理システムを展示致します。また、無線を応用した予防保全機器の参考展示も行います。

◆宛名紙印刷搭載機

二次元バーコードの印刷を可能とし、新聞束単位の識別を可能としました。

◆新聞束管理システム(パネル展示)

二次元バーコードにより、新聞束1梱単位の行先、個数、時間の管理を可能とし、新聞束の取り置き管理、販売店への積み卸の管理を行います。

◆無線を応用した予防保全機器(参考出展)

消費電力が少ないZigbee（近距離無線通信）を使用した機器を提案致します。

ニッカ

《新聞製作を周辺装置からバックアップ》

ブランケットとガイドローラー、ふたつの洗浄装置を初めて新聞社に紹介した当社から、各種周辺装置をご紹介いたします。

◆ブランケット洗浄装置 ABS-EN

洗浄液含浸不織布方式で、簡単なシステム構成。ブラクリン洗浄液の技術を生かした消耗資材。NAクロスアクアWETも合わせてご紹介致します。

◆インキドクタ洗浄装置

「お客様の声をカタチニ」をモットーにして開発された新製品。4×2機はもちろん最新の4×1機のドクタパンも洗浄化可能です。接触型洗浄システムを採用し、あらゆる形状のドクタパンに対応します。この他に、環境対応でご評価頂いている廃液再生システムなどをご紹介致します。

東和電気工業

東和電気工業(株)は電気設備から見る地球環境とのテーマに、省エネルギーと資源リサイクルをコンセプトとした出展を行います。

①LED照明器具

従来の蛍光灯器具よりエネルギー消費効率向上及び蛍光管が長寿命となり、大幅な省エネで電気代などのトータルコストを抑えた照明器具です。また、LEDは環境に有害な物質を含まないなど環境に優しい照明です。

②エコ電線

被覆材にハロゲンや重金属類が含まれていない耐熱性ポリエチレンを使用することにより、焼却処理及び災害時にダイオキシンやハロゲン系ガスの発生がなく、発煙も少ない環境に配慮された電線です。廃棄後に被覆材と電線本体の分別が容易です。

日本アイ・ビー・エム

SNSの加速度的普及や多チャンネル化の進展など、メディア業界を取り巻く環境は大きく変化しています。このような状況を踏まえて、新たな時代における新聞社の進化のシナリオと今後求められる情報システムのあり方について、ご紹介いたします。

—新聞ソリューション

組版や出力といった新聞製作ソリューション「NPS (New Publishing System)」と、編集・製作分野をはじめとする新聞社業務の効率化と、情報発信力の強化を支援するための編集支援システム「e-NewsRoom」に磨きをかけてご紹介いたします。IBMのこれまでの新聞製作とデジタル・メディア分野での経験を生かしながら、最先端のIT技術を適用して、お客様が「統合情報産業」へ向かうための基盤となるシステム環境を構築し、お客様の将来にわたる業務変革をご支援いたします。

日本アグファ・ゲバルト

【現像液を使用しない環境対応の現像レスプレート】を実演と共にご紹介。商業印刷では“現像レスプレート”として国内外でシェアNo.1を誇り、オフ輪を含む数多くの印刷会社で導入されている環境対応現像レスCTPプレート「アズーラTS」と、高速クリーニングユニット「アズーラCX125」をご紹介します。

露光後のプレートはCX125で洗浄処理するだけの簡単処理を実現。現像液が不要なので、現像による変動のない安定したプレート品質を実現。処理薬品のランニングコストも現状より2～3割削減を期待できます。

さらに面倒な液温管理もない高速起動のCX125は、1液のみで液が混ざる事もなく地震などの災害時の復旧性にも優れています。

ブースでは既にアズーラTSご導入の新聞社様のご紹介、新聞のサンプル等も展示します。新聞における「環境対応」の効果を是非ご確認ください。

日本電気

NECでは、新聞社様の変革するビジネス環境に適應するための次世代に向けた多様なソリューションをご提案いたします。

多メディアへの対応と効率的な業務フロー等を実現するコンテンツマネジメントシステム<CMS>の新たな取組みやJANPS2009の出版以降着実に構築実績を積み重ねてきたトータル新聞編集システム<NEPCELL-UX GLOBEⅢ>をはじめ、モニタープルーフやインキ削減への取組みのほか、上流から下流まで新聞社様に貢献するNECのトータルソリューションを出展いたします。是非、ご来場ください。

【出展予定の主なソリューション】

- ◆コンテンツマネジメントシステム
- ◆トータル新聞編集システム
- ◆トータル広告管理システム
- ◆モニタープルーフ、インキ削減
- ◆CTP装置、その他新ソリューション 他

日本新聞インキ

日本新聞インキは高品質印刷・環境に役立つ機器を中心に展示を行います。

◆高濃度インキシリーズ

VEGA-MXグランツ

高精細印刷におけるインキの薄膜化にも対応し従来の品質を保ちつつ、使用量削減を目指したシリーズのご紹介。

◆中性湿し水 ドン・エッチシリーズ

紙面品質、作業性に優れ、希釈水に容易に分散し少量で効果があります。

◆その他

CVCF（無停電電源装置）等のバッテリー再生事業。携帯式電子ルーペ（ビューペ）事務所・休憩室など香りのチカラで環境改善、消臭・抗菌・芳香の3つの機能を同時に行う香り発生機DAA、等。

日本ボールドウィン

日本ボールドウィン(株)は印刷機周辺機器等専門メーカーとしての長年の経験をもとに、お客様のご要望にお応えできる製品やサービスをご提供しております。

JANPS2012では高速スプレーダンプナーやブランケット洗浄装置といった基幹製品に加え、最近のお客様の「セミコマシャル化」の流れを受け、高出力UV照射装置を出展いたします。独自の反射板設計によりロスが少ないため、高出力で非常に高効率かつ長寿命のUV照射装置です。その他にも、各自治体の厳しい排水基準にも適合する廃水処理装置や、紙面品質向上と損紙削減を可能にするQI社製レジスターコントロールシステムなど、コスト削減だけでなく環境にも貢献できる製品も展示いたします。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

パナソニックSSインフラシステム

パナソニックSSインフラシステム株式会社では、「3つのSで、「今、新しい新聞技術」を創造！」をテーマに、新聞社様のお役に立てるソリューションのご提供を目指しております。

◆**Safety** 災害時や障害発生時にも運用を止めることのない、安全/安心なシステムをご提案します。

：DELMINAX新聞制作システム、CTPサーバシステム等

◆**Save** 導入/運用コストの低減に貢献し、優れた省エネ性能で環境に貢献します。

：CTPエンジンシステム、進化型画像処理システムEvoColor、ソフトプルーフ等

◆**Strategic** 新聞社様の新たなビジネスをお客様と一緒に構築します。

：統合出力システム、コンテンツマネージメントシステム、統合データベースシステム等

フジオ産業

当社は1972年に環境課題への取り組みを通じ地域社会に貢献すべく創業、その後印刷業界で発生する産業廃棄物の回収業務を主業務として関係各社からご愛顧頂いております。

それに加え1986年以降日本各地の新聞社様より新聞輪転機並びにこれらの周辺装置、その他の解体撤去、転売を請負い、この業界ではリーディングカンパニーとして評価を頂いております。韓国、インドなどアジア各国にそれらの新聞輪転機を主とした印刷機器等の輸出及び設置工事、また各メーカーのご支援も受けメンテナンスも行い各国ユーザー様より高い信頼を受けております。

今回これらの実績(累計80セット以上)や解体、搬出状況をパネル展示にて、ご紹介させていただきます。ぜひ当社ブースへお立寄り頂きたくご案内申し上げます。

ビジュアル・プロセッシング・ジャパン

紙・Web・アプリの編集制作を一元化するグローバルスタンダードのITソリューションをご提案。

「次世代新聞メディアに向けたエンタープライズコンテンツマネジメント」と題し、Adobe InDesignベースのオープンな“新聞制作”、スマートフォン・タブレットへ向けた“デジタル新聞”、写真・記事・動画など新聞社の資産を有効活用する“コンテンツ管理”の3つの視点でご紹介します。国内新聞社の運用事例を交えご覧頂けます。

●新聞制作ソリューション

『新聞社の次世代オープンパブリッシング』

－WoodWing Enterpriseによるオンライン編集制作－

●デジタル新聞ソリューション

『スマホ/タブレット対応のデジタル新聞発行』

－WoodWing Enterpriseによるクロスメディア新聞コンテンツ運用－

●新聞コンテンツ管理ソリューション

『新聞社のデジタルアセットマネジメント』

－ターボサーバーによる写真・記事・動画コンテンツ管理－

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ

多品種・小ロット対応に威力を発揮する先進のインクジェットデジタルプレスや、新聞社様の環境負荷削減とコストダウンを実現する最新システム群を中心に、デモやサンプル展示を交えながらご紹介します。インクジェットデジタルプレスは、drupa2012でも話題となった汎用タイプの『Jet Press W (仮称)』と高速タイプ『富士ゼロックス2800IJCCF』の多彩な印刷サンプルを展示し、その仕上がり品質の高さをご覧ください。CTP分野では、4×1輪転機用の刷版にベストフィットの新自動現像機『LP-940News II』。環境負荷削減関連では現像廃液削減装置『XRシリーズ』、再生水再利用装置『XR-R60』、消費電力削減装置『エコキーパー』、大幅なCO2削減・省資源効果ある『クローズドループリサイクルシステム』等をご紹介します。

富士通

富士通は、デジタルコンテンツ時代をリードするICTベンダーとして、新聞社様に貢献できるソリューションをご紹介します。

●クロスメディアソリューション

従来の新聞制作システム(PRESSシリーズ)を進化させ、「新聞制作」と「デジタル制作」の効率化を追及したクロスメディアソリューションをご紹介します。

●エコロジーソリューション

多くの新聞社にご採用いただいているECO 製品の新バージョンをご紹介します。紙面品質を更に高め、インキ削減など新聞社様のコストダウンにつながる製品です。

●社会インフラソリューション

「安否確認システム」、「ビッグデータの活用事例」や「スーパーコンピュータ【京】」についてをご紹介します。

方正

今回の出展テーマは、「最佳合作伙伴～新聞社のベストパートナー～」です。

成熟産業である業界に対して、設備投資の抑制と、新たなビジネスの創造のために、Win-Winの関係を構築すべく、企画展示をさせていただきます。

コーナーは大きく分けて3つ。ひとつは、上流システムの設備投資を抑制する手法として「システムリフォーム」による開発実績と考え方を展示いたします。2点目は運用改善のためのアイデアとして、バッテリー再生サービスや電力費用の圧縮化など、いくつかのソリューションをご紹介します。また、新たなビジネスの創造のためのヒントとなるべく、デジタルサイネージ、デジタル印刷機、電子新聞サイトの活用事例を展示するコーナーも設けます。意見交換ができる場として、ぜひお立ち寄りください。

プロスパーククリエイティブ

新聞紙面の印刷用色管理システム

「カラーブレイン」誕生

■分光光度計型:カラーブレイン・スポット

■CIEXYZフィルタ型:カラーブレイン・エリア

【主な特長】

- ①世界初、新聞紙面の任意絵柄をL*a*b*測色。
- ②新聞の絵柄測定値L*a*b*をCMYKインキ補正量に変換し、数値%ガイド。
- ③ネットワークプルーフを高精度で実現。

色校正紙の代わりに、(1)紙面データ、(2)測色部分画像、(3)絵柄測色L*a*b*データをサーバー保存し、各印刷機でリモートプルーフ又はモニタプルーフと、刷り出し紙面の測色値とを比較・CMYK色調整・管理。

- ④クロスメディアに自在活用。

カラーブレイン・エリアで入力した世界初L*a*b*画像は入力プロファイル無しで完全保存。電子美術館など新聞社の新事業にも活躍。

三菱重工印刷紙工機械

キーワードは「smart」

日本に大きな爪痕と多くの教訓を残した東日本大震災から一年半。このような時代に輪転機に求められるものは何なのか？印刷工場はどうあるべきなのか？

これらについて、三菱重工グループからご提案させていただきます。

◆発展型DIAMONDSPIRIT

2005年の初号機納入後、全世界で約20セットが稼働中。ご好評頂いているDIAMONDSPIRITの「これからの進化」について、ご紹介致します。

◆これからの印刷工場

更に、輪転機を含め、印刷工場のエネルギー有効活用について、三菱重工グループからご提案致します。

三菱製紙

三菱製紙株式会社は、高精細(新AM/FM)画像の再現と高い耐刷性を両立する最新CTPプレート「PD-NewsVer.5」と、環境負荷を大幅に低減した商業印刷向けプレート技術を新聞少ロット印刷向けに検討しておりますプレートシステムのコンセプトをご紹介します。

【環境改善商品】

新聞社様の環境ニーズにお応えする為、現像液だけでなく、輪転機の湿し水等の水溶性廃棄物の処理ができる廃液処理装置(FRIENDLY CT-AQH5コスモテック製)をご紹介します。

【商業印刷関連商品】

新聞社様で取り組んでおられる商業印刷でのインターネットを活用した入稿/校正をシステム化した「ディアリプレポータル」と商業印刷の小ロット印刷に対応した完全プロセスレスCTPプレート「TDP」をご紹介します。

モトヤ

モトヤ書体は活字時代から文字の「読みやすさ」と「美しさ」を追求し、多くの新聞社様に採用されています。

今回の出展では、大文字化対応や太さの調整で通常の新聞書体より可読性・視認性・判読性を高めた、モトヤUD(ユニバーサルデザイン)対応新聞書体を実際の紙面サンプルで紹介します。

新聞のデジタル配信や公的な機関紙、または高齢者向けの新聞紙面に最適なモトヤの新聞書体を、是非ともご高覧ください。

●読みやすい・見やすい、モトヤUD新聞書体

●太さが選べる、CTP対応フォント

●仮名デザインが選べる、新仮名対応フォント

●モトヤ書体採用、各社新聞紙面サンプル

●デジタルフォント作成、IKARUS System

明和ゴム工業

新製品1.水着ローラ(NCD-Ⅳ)

新聞オフセット輪転機用のダンプニングローラとして開発され、版エッジに対する抵抗力が高く、額縁汚れを解消すると共に表面ゴム層の保水性の高さから適度な湿し水を供給する能力があります。またエコインキやSOYインキの使用に伴う経時変化も抑えられます。

新製品2.ペースタローラ用スポンジ

ペースタローラに求められるクッション性を長期間維持可能とした新材質のスポンジです。表面の硬度上昇や径変化によるニップ圧の変化が少なく常に一定のニップ維持が可能です。

・スポンジ硬度: $15^{\circ} \pm 5^{\circ}$

・色: 黄色

モリサワ

株式会社モリサワは、それまでの印刷技術の流れを大きく変えた「邦文写真植字機」を発明して以来、一貫して「文字の未来」を見つめて研究・開発を続けてまいりました。人類の貴重な財産である「文字」文化、その発展に寄与すると共に社会への貢献を果たしていくことこそモリサワの変わらぬ熱い願いです。今回の出展では、コアビジネスであるフォントを中心にモリサワの「今」をご紹介します。

●MORISAWA PASSPORT

PC1台につき1年間52,500円(税込)でいつでも選べて好きなだけ使える画期的なライセンスシステムです。本年度もモリサワフォントをはじめ、ヒラギノ、タイプバンクの日本語フォントに加え、新たに欧文、中国語、韓国語フォントも収録され、200書体を超える新書体が加わり、ますますグレードアップされた快適なフォント環境をご提供します。

千葉大学大学院融合科学研究科小林・青木・今泉研究室

画像メディアのもつ特有の画質(メディア画質)に接するとき、人の脳機能による知覚・認知により、その画質情報から多くのことを感じる。こうした知覚・認識を考慮し、画質やイメージングに応用することで表現方法もより多彩となってきます。

新聞印刷においてもCTPが普及した現在では、ワークフローに適した色再現やスクリーニングが求められる。これらに対応した新スクリーニングや、新聞カラー紙面評価を紹介します。

デジタル画像への情報埋込みは、セキュリティ分野に応用されている。埋込情報量が増大すると画質は劣化するが、色情報を考慮することで抑えられる。この情報埋込みによる著作権保護技術を紹介します。

千葉大学大学院融合科学研究科小関研究室

画像マテリアルコース 小関研究室では、情報を記録・表示するための画像記録材料、特にフォトポリマーを中心とする光機能材料の物性評価や、紫外線硬化型ジェットインク、フレキシブル液晶ディスプレイやホログラフィックメモリーなどの応用を見据えた材料設計に関する研究を行っている。それらの研究内容を、パネルなどにより展示する。

具体的な内容としては：(1) UV硬化型ジェットインクの組成と基板接着性、(2)フォトポリマー材料によるホログラム記録、(3)デジタルサイネージなどへの応用が可能なマイクロカプセル化液晶を用いたフレキシブルディスプレイ、(4) UV硬化膜の物性、(5)デジタル印刷の省エネ化に対応する、低温溶融トナーのマイクロカプセル化による安定化、(6) UV硬化型フレキシインキのレオロジー特性と印刷適性 など。

千葉大学大学院融合科学研究科北村研究室

人と環境に優しいカラー電子ペーパー

薄くて軽く紙のように持ち運び自由で、文字や画像の書換えが可能な電子ペーパー技術と、レーザーリライタブルマーキングを紹介いたします。電子ペーパーは電子ブック、電子新聞、電子ポスター、値札棚札、携帯電話などへの利用が進められています。当研究室では、白色および黒色の粒子を電気泳動させて文字や画像を表示する電気泳動方式電子ペーパーと、空気中で白色トナー、黒色トナーおよびカラートナーを移動させて表示するカラートナーディスプレイの研究を行っています。また、半導体レーザーの加熱によりロイコ染料の発色および消色を行うリライタブルマーキングの実用化を目指しています。

東京工芸大学工学部メディア画像学科

本学は来年で創立90周年を迎えます。本学工学部開設時に設立された写真工学科と印刷工学科の伝統を引き継ぐ本学の基幹学科であるメディア画像学科には、次世代ディスプレイや立体表示デバイス、高精細印刷などの画像入出力技術を学ぶ画像科学コースと、CGや映像、アニメーションやゲームのプログラミング技術を学ぶCG・映像情報コースがあります。

ディスプレイデザイン研究室では、「印刷デバイス」と「印刷エレクトロニクス」を大きなテーマとし、平面発光素子に関する研究と照明用光源に関する研究を行っています。新しい照明や表示デバイスへの応用が期待されているELの中で、東京工芸大のグループが精力的に研究を進めているのが有機色素分散型EL素子です。

東京電機大学エルゴノミクスデザイン研究室

東京電機大学情報システムデザイン学系、エルゴノミクスデザイン研究室では、以下の内容を出展致します。

【UCDAフォントを用いた新聞の可読性評価】

一般社団法人ユニバーサルコミュニケーション協会、株式会社イワタと共同開発したUCDAフォントを用いた新聞を作成し、評価をする。

【縦組み、横組みによる新聞レイアウトの可読性の違いの研究】

日本の多くの新聞は縦書きを採用しているが、同じ内容で横書きの新聞を作成した際における可読性の違いについて比較をする。

比較をする際には、ユーザの視線を計測できる機器を用いて、新聞を読んでいるユーザの視点がどのように変化していくかを分析し、比較をする。

日本プリンティングアカデミー

印刷メディアに関する教育・研究機関。印刷産業の進化に貢献するために、印刷メディアの新しい価値と発展の方向を思考し、それに対応した経営・マーケティング・生産技術をバランスよく身に付けた実践的人財育成と研究開発を目指す。

実践的教育と補完し合う研究開発成果は、印刷技術・プリプレス・マーケティング&営業・経営の多岐にわたり業界の事業革新を支援する。

ブースでは、それらの内容をパネルやデモ、サンプル展示等で紹介。

CONPTセミナーのご紹介

JANPSの恒例となったCONPTセミナーを、今回も開催します。

JANPS2001以来6回目となる今回は、JANPS展示期間が4日から3日に短縮されたことに合わせ、少しスタイルを変えて開催します。

会場は、JANPS展示ホール内に設けたセミナーブースとなります。収容人数が従来より少ないため、会期の3日間に合わせた、3つのテーマに分けて開催します。

テーマは、現在詳細調整中ですが、10月末に行われるCONPTツアー（WPE展＝旧Ifra展見学）の報告や、新聞社講師を招いた講演などを予定しています。

開催時間は、毎日14時30分から15時15分までの予定です。

詳細内容は、10月中旬にお知らせし、合わせて聴講申込の受付を開始しますので、楽しみにお待ちください。

出展社セミナー

CONPTセミナーの会場となるセミナーブースでは、CONPTセミナー以外の時間帯に、出展各社が主催するセミナーが開催されます。

出展会員社、非会員社に加え、出展新聞社からもセミナー開催の希望が寄せられています。現在時間割を調整中で、10月中旬には割当を決定します。

詳細は、JANPS公式ウェブサイトやCONPT会報11月号でお知らせします。セミナーによっては、事前申込が必要なものもありますので、ご案内をご覧の上お申し込みください。

2012 年 IFRA 展ツアーの視察ポイント

日本新聞協会 技術コンサルタント
三宅 順

今回のツアーの視察ポイントは大きく二つあると思う。一つは新生のIFRA Expoそのものであり、もう一つはメーカーであるオセの工場見学だろう。他の見どころは例年通り、欧州の最新新聞印刷事情調査のための新聞社や最新の印刷工場の見学だ。

1. World Publishing Expoについて



今年の Expo (WAN - IFRA HP より)

今年のExpoは開催場所の変更と名称の変更があり、新生Expoとなりそうだ。当初、開催地はスペインのマドリードを予定していたが、交通事情などの理由からドイツのフランクフルトに変更となった。また、その名称についても従来の「IFRA Expo」から「World Publishing Expo」へと全面変更となった。その理由について関係者は次のように述べている。「ニュースの発信が従来は新聞を中心に行われてきた。それが最近ではタブレット、モバイル、オンラインなどデジタルへと急速に変化してきている。つまりExpoの性格を業界の変化に適合させる必要があり、新たな出展社や来場者にも関口を広げようとするものだ」。今までのExpoから展示会の名称は全面的に変更となったが、展示内容については新たにデジタル部門が加わると考えてまちがいなさそうだ。

一方、新聞業界の現実を目を向ければ、状況は依然として厳しい。収益の新たな柱を見出そうとする努力が新聞社や関連メーカーの間で続けられている。こうした状況と5月のdrupaでの新聞業界関係の展示内容から考えると、今回の新Expoの見どころは大きくは2点に集約されるように思われる。

①既存の印刷技術部門

前回のExpoや今年のdrupaでは、新型輪転機の実機展示はまったく見られなかった。しかし、欧米の主要国での輪転機需要が盛り上がりながらも、将来につながる技術の開発は続いている。その一端は必ず示されると思う。それが「パフォーマンスアップ」の分野ではなかろうか。この意味は、作業人員、作業方法、印刷品質、新機能や機能の拡大、資材節約、機器の延命化、改造などのためのさらなる自動化・効率化を目指した新技術の紹介だ。

②デジタル部門

この部門では「デジタル関連の印刷技術」と「新聞に代わるデジタル情報発信」だろう。特に、オフセット輪転機に代わるデジタル印刷技術の展開、印刷速度や品質の向上、コストの削減に関する新技術については要注意だ。新聞発行では、一部のメーカーによるインクジェット印刷の利用が始まった。TKSが日本で既に本番印刷開始(米国シカゴでもまもなく稼働予定)、またオセがマンローランドと組んでフランスのリモージュにある印刷会社に納入する。

また、将来の収益の柱として期待される

デジタル情報発信についても、コンテンツ収集から、発信のためのプラットフォーム、さらに広告処理、顧客管理や料金請求業務まで関連する業務は多岐にわたる。この分野の新規出展メーカーと、その技術からは目が離せない。どのメーカーやユーザーにとってもデジタル印刷分野やデジタル情報発信への進出に遅れをとってはならないはずだ。

③その他

主催のWAN-IFRAは例年通り日本のCONPTツアー参加者のために「特別セミナー」を開催してくれるほか、新企画としてラテンアメリカの新聞社とメーカーの技術団体「ATDL」との「特別セッション」も検討している。日本とラテンアメリカの新聞事情相互理解の場となるはずだ。例年とは少し違ったセミナーになりそうだ。

2. 視察先について

今ツアーではドイツ国内の3か所を訪問し、最新の欧州新聞製作事情を探る。

①オセPoing工場

まず、今回のツアーの目玉であるメーカーのオセPoing工場の見学についてだ。通常、メーカーはメーカーの見学を許してはくれない。関係者はだめかもしれないと思いながらの見学交渉だったようだ。ご存知の通り、2009年11月オセは日本のキヤノンの傘下に入ることに合意した。オセの本社はオランダにあり、1877年創立の各種印刷システムの開発・製造・販売を幅広く展開するメーカーだ。特に、業務用大判プリンターでは欧米で高いシェアを獲得している。新聞印刷ではフランスで導入が決まったJetStream 4300で知られる。視察先はドイツ・ミュンヘンの東約20kmにある同社Poing工場となる。同工場ではプリントシス

テムの製造だけでなく、研究開発、品質保証、販売、サービスの部門もあるそうだ。どこまで見せてくれるか、話してくれるか、参加者には突っ込んだ取材を期待する。

②南ドイツ新聞社(本社)

新聞社ではミュンヘンにあるドイツ第二位の南ドイツ新聞社(sueddeutscher-verlag)の編集部門を訪問する。同社は日刊紙Süddeutsche Zeitung（略称：SZ、約44万部）を発行している。電子版(<http://www.sueddeutsche.de/>)も25人の記者を中心に発行されており、年間1.4億のアクセスがあるという。また、読者との交流の場として、仮想のラウンジ「Sued-café」もあるという。電子版についての将来像や取り組みを確認する。

③DRM新聞印刷工場

欧州では最も近代的な新聞印刷工場の一つといわれている、フランクフルトにあるDruckzentrum Rhein Main（略称：DRM）を視察する。同工場はVerlagsgruppe Rhein Main と Medienhauses Südhessenとの合弁印刷会社で受託印刷を専門としている。同工場は2010年末に稼働を始めた新鋭工場だ。所有設備は高速のCTP方式の製版設備、印刷はWifag evolution 473/6が4セット、発送はSchurのA1455を中心とした構成となっている。欧州でも厳しさが続く印刷業界では生き残りをかけた戦いが続いている。欧州の典型的な最新鋭工場設備や同社の運営方針は日本の新聞社、関連メーカーにとっても大いに参考となることだろう。



DRM 印刷工場全景（同社 HP より）

新局長に就任して

「できて当たり前」が重要

産経新聞大阪本社 制作局長

寺塚 良一

東京から大阪に単身赴任して2年2ヵ月過ぎた今年6月、「大阪本社の制作局長」と人事異動の内示を受けた。「そろそろ東京に戻ってくるかな」と思っていた家族はショックだったようだが、私自身は新しい仕事のことを思うと、それどころではなかった。



入社以来25年以上、編集局で仕事をしてきた。制作局と関わることが多い整理部に長年いたが、新聞製作システムや印刷、輸送など詳しい業務内容は全く知らない。素人が制作局を背負っていいのか不安は多かった。

着任後、初めての朝のミーティングで、その心配が的中した。この会議は前日の夕刊、朝刊の作業状況やトラブルなどを局員から報告を受けるものだが、カタカナの専門用語が飛び交い業務上、何が起きたのか、さっぱり分からない。初めは専門用語をインターネットや書物で調べてから会議に出席していたが、次から次と新しい用語が出てくる。限界を感じ「恥ずかしいが局員に聞くしかない」と決意した。会議で理解できない専門用語が出てきた場合は「ちょっと待って。いまの用語を私に分かるように説明してくれ」と会議の進行を止めることもある。局員は「面倒な局長がきたな」と思っただろうが、着任して2ヵ月、ようやく用語がある程度、理解できるようになった。こんな頼りない局長で局員に迷惑を掛けるかこともあるかも知れないが、全力で

制作局の舵取りをしていこうと思っている。

制作局の仕事は「できて当たり前」、ミスやトラブルがなくても評価されない。反面、トラブルがあれば読者からお叱りを受け、社内的にも各部署に迷惑を掛けてしまう。先輩から「制作局長は謝ることが仕事」と助言されたが、着任して、それを実感した。

印刷は機械が相手なので、いつトラブルが起きるか分からない。輸送も道路渋滞や交通事故、台風など自然災害が発生すると大幅な遅れが生じる。プロである以上、あってはならないことだがヒューマンエラーもある。トラブルやミスは起こりうると覚悟しながらも対策を検討しておくことは言うまでもない。トラブルの状況を素早く把握して次善の策で対応できるような準備をして置くことが重要である。トラブルを最小限に抑えることを制作局の共通認識としている。

この夏は計画停電の対策に頭を悩ませた。大阪本社ビルと3カ所の印刷センターのうち2つの印刷センターが停電対象区域に入った。停電が発生した場合、自家発電の稼働テストや印刷センターの振り替え、輸送ルート見直しなど、電力会社が公表した計画停電のスケジュールと照らし合わせながら対応策を設定した。幸いにも今夏の計画停電は回避できたが今回、策定した対応策は決して無駄にはならないと思う。危機管理の大切さを改めて感じ、日頃から有事に備えた準備がいかに重要であるか再確認した。

東日本大震災では被災した新聞社が必死に新聞を作っている姿をテレビ映像で見て感動した。その新聞を手にとった読者の顔が目に焼き付いている。仮に大災害が起きても「絶対に新聞を発行して読者に届ける」

ということ忘れてはならない。

インターネットの普及で新聞離れ進む中で、東日本大震災で新聞の重要性を再認識した読者も多かったと聞く。読者の期待を裏切らないことが我々の責務である。「できて当たり前」で社内的には評価されにくい仕事でも毎日、新聞が届くことを待ち望む多く読者がいる。

「良質な商品を作り、決められた時間に届ける」。この当たり前のことを制作局は一丸となってやっていく。

印刷局の今昔

北日本新聞社 印刷局長

光里 隆

6月に印刷局に異動になった。それまではずっとCTSシステムなどを担当していて、新聞業界では上流工程と呼ばれる部分の仕事だった。まあそれでも数年前から高精細の網だとか、GCRだとかいった上流工程と下流工程のつなぎのような仕事を手がけていたので、印刷局とはまったく縁が無かったわけではない。印刷局にテスト刷りなどをお願いして輪転機を回してもらっていた。それが急に印刷局へ行けと命が下った。印刷局は初めてではないが、約30年ぶりのことである。



北日本新聞社に入社して最初に配属されたのが印刷局。当時の輪転機はAPR（樹脂版）の凸版輪転機にサテライトと呼ばれるオフセットカラー輪転機を組み合わせたものだった。印刷できるのはわずかに24ページ。カラー面は4ページだった。今にして思えばたいした機能はないが現在の輪転機に比べ武骨でがっしりした物だった。

それに比べると現在の輪転機は48ペー

ジ。カラー面は40ページである。もちろんオフセット輪転機で、ほとんどの制御がタッチパネルやスイッチで行う物で、昔のようにギヤを手で回すような物はほとんど見受けられない。まあ、手で回していた物をモーターが回しているのだろうと思うところはたくさんあるのだが。それにしても、TNPCだのTCUTTERだの紙面検査装置だの自動化が花盛りで、いろんな部分がコンピューターで制御されている。

ずいぶんと進歩したものだと思う反面、輪転機を扱うには、いろいろな知識が必要だ。これだけ複雑になると、ちょっとしたトラブルが発生しても原因を見つめることは容易ではない。新聞の印刷は、時間に追われる仕事であり、どんな状況にあっても輪転機を回さなければならない。部員には不測の事態に備える能力が要求される。

また、きれいな新聞を作るためには、インキや水のコントロールも重要になってくる。現在、高濃度インキに切り替えて、いろいろテストをしているが、なかなか簡単に結果が出せるものではない。インキメーカー、用紙メーカーなどいろいろな方とお話をさせていただいている。

やはり30年のブランクは大きく、全くわからないことばかりだ。用語ひとつとっても忘れたのか、最初から知らないのかわからないようなものがたくさんある。

輪転機だけではなく、巻き取りを扱う紙庫、AGVやインキ供給設備、自家発電機などあまりにも守備範囲が広い。機械の知識、インキ、紙、水など様々な素材の知識。このように、印刷局の仕事は今までとは違った知識が必要であり、勉強の毎日である。なかなかすべてに精通することはできないが、設備の方向性や運用について責任を持って指揮していけるよう努めている。各社の諸先輩方のご指導をお願いします。

プロの心意気

山陽新聞社 執行役員印刷局長

片山 淑雄

私が入社した1974年当時、わが社では記者志望で編集局に配属されたものは“記者教育”として、校閲部で2～3年間、校正業務に就いてから外勤職場に異動するのが慣例になっていた。



入社当初は人事部にいた。73年秋のオイルショック以降、経済環境が激変。76年春入社の社員募集を中止した時点で、校閲部の若手が不足することが見込まれた。このため、事務部門にいた高度経済成長時代最後の大量採用組の1人である私に、編集局からお呼びがかかったのは75年夏のことだ。

校閲時代に致命的なミスは出さなかったと思っているが、送版後ミスに気付き、紙型に活字を打ち込んでもらったり、鉛版を削ってもらったりで、冷や汗をかいたことが度々ある。散々嫌味を口にしながらも、快く？ 引き受けてくれたのが、印刷局の大先輩だった。

あれから35年以上経過。編集畑が長く、印刷知識ゼロの人間に、異動の話が来るとは想定外であった。が、非情にも待たなしで、素人局長ぶりを発揮する日々が始まっている。

輪転機を安定稼働させ、決められた場所に決められた時刻に本紙を届ける。当たり前にできるようで、簡単にできることではない。仮にできたとしても「それが当たり前」の世界。決してほめられることはない。正常運転というプレッシャーに耐えながら、古い輪転機や送送機材に立ち向かい、黙々と働く局員には正直頭が下がる。

常々、新聞社はサービス業であると考え

ている。それゆえにではないが、記者時代は人が働く日は当然働き、休日のときも働いた。いや、働かされたのかも知れないが、要はお客様にいかに喜んでもらい、いかに満足してもらえるかに尽きる。

前任の読者局では「いかに山陽新聞のファンを増やすか」を命題に、迅速で適切、ミスのない対応が求められた。

ただ、読者から記事については様々な意見を頂戴したが、印面についてのクレーム、お褒めの言葉は皆無だった(もちろんクライアントは別である…)。

残念ながら、わが社の紙面(写真)は非常に美しいとは言えないと判断している。色ずれが気になる日も多い。大半の読者は、紙面に載る機会は一生に1回あるかないか。それだけに、紙面に載った人に満足してもらえる綺麗な本紙を届けたいと思う。

出張で県外に行くときは新幹線の利用が多い。びっくりするのは、JR岡山駅への到着時刻〇時〇分の5秒前に列車がピタリと停止。5秒かけてドアが開くという、全くの定時到着に出くわす場面があることだ。

先日のテレビで、新幹線の運転士が「定時プラスマイナス5秒以内の到着を目指している」と、淡々とインタビューに答えているのを見て、納得した。

新聞印刷でも1ミリの何分の1を合わせるというプロの業が求められる。なかなか容易にできることではない。数々の経験、長年にわたって積み上げてきた技量が必要となる。記者は行間に自らの思いを込める。同じように、印刷のプロと自負するならそのプライドを印面で示したいものだし、示さねばならない。古くなった機械をなだめすかしながら、見る人が納得、感心してもらえる紙面を刷り上げてこそプロと言える。

輪転機を安定稼働させ、定時店着を平然と成し遂げ、さりげなく印刷プロの矜持を

示す。そんなプロ集団を育てていきたいと思っている。もちろん、併せて経費削減も進めば、言うことなしである。

どっぷり新輪転機

西日本新聞社 執行役員製作センター長

池島 利宣

およそ2年前、輪転機更新計画策定の命を受け、工程管理部門から製作センターに異動した。当時、耳にたこができるほど「新輪転、たいへんですね」と言われた。漠然と「そんなに大層なことなのか」と思った。その意味を心底かみしめたのは、計画が徐々に煮詰まったここ半年間だ。



理想とする生産機器、それとぴったりマッチするはずもない予算。逆に予想を超えるような理解を受けて「あれよあれよ」と導入が決まった機器。まことに社内、社外の調整は悩ましいものではあった。全機器の選定を終えたのは当初予定よりも大幅にずれこんだ今年6月。着工予定日の目前だった。新輪転1号機の本格稼働は来年3月を予定しているが、あらまし既に終わったような気がするのには「着地」への道のりをよほど長く感じていたせいだろう。

そうこうするうちに、この任を命ぜられた。土中から無理矢理引っ張り出されたモグラの心境といえばよい。ふぉーばいわん? かつとおふ? 技術部員たちと、あーだこーだ構想をこねくり回していた裏方が、突じょ舞台に立たされて下手な口上やら挨拶やらと何がなんだか分からない。だいたい50代も後半ともなれば変化への即応心が鈍って当たり前だろう。お前、生産設備は詳しいんだろ? と言われれば、それはそうかもしれないが「2年前の自分に比べれば」

という程度で心もとない。編集出身だから「半可通にして針小棒大」という傾向なきにしもあらず。というより多々ある。しかし、半端な知ったつもりは、新聞社の生命線である輪転機については禁物だろうと自戒してきた。重すぎるのだ。あまりに理解が乏しいのもアレだが、技術屋さんたちを論破するほど知識が深すぎてもナンダ。独断や先入観が混じる…というか。こんな理屈をもってここに至っているから「なんでも聞いてもらって結構ですが、あまり突っ込まないでください」と、とりあえず予防線は張らせてもらっている。

南国宮崎の出身なのに、暑さが年々歳々苦になっている。いや、年々暑くなっているのか。駅からセンターまでの徒歩十数分の遠いこと遠いこと。ことに今夏は、自分自身の環境の変化も手伝ってこたえた。計画停電の対象外区域から外れ、節電を厳守し、そのうえゲリラ豪雨は九州でも頻発。工場には十分な自家発電機能がないから、とくに雷には肝を冷やした。現実には、落雷の影響で電圧が瞬間的に低下する「瞬低」も発生した。着々と進む新輪転基礎工事への影響も気になる。これは冷汗か脂汗か、それともただ単に暑いからだけなのか…。

しかし、こうしたトラブルにも毅然として合議一決し、現場に向かい、解決する技術者やオペレーターたちの姿には毎度感心させられる。男の値打ちには背中表れるという。こういうシーンを間近に見れることが、紙とインクの、あまり好きな言葉じゃないが「リアル世界」の醍醐味である。

こうした現場力とピッカピカの輪転機の実力がうまく混ざり合って、良い効果が生まれるのを期待したい。残念ながら現用輪転機の型式では、昨今飛躍的に進む新印刷技術にチャレンジする余地は極めて限られていた。高精細や超軽量紙。これから積極果敢に取り組むべく、専従を配置しシステ

ム部門との連携も進めている。

限られた紙幅のなかで恐縮だが、新輪転の構想づくりにあたり同業他社の皆さんやメーカーの方々に本当に親切丁寧にアドバイスをいただいたことにあらためてお礼を申し上げたい。

欠陥ではなく血管だ

毎日新聞東京本社 制作技術局長兼物流本部長
中村 詔吏

6月末の就任挨拶で「制作技術局は会社のケツカン(血管)です」と切り出したら「欠陥」と受け止めた部員から驚きともブーイングともつかぬ声が上がりました。



新聞社が生み出すコンテンツを滞りなく商品にしてエンドユーザーに届けること。コンテンツが血液ならば、制作技術局は血管だという意味でした。

いやはや、自分ではわかっていることを他人に説明するのは難しい。

異動するまで主に編集局の整理畑で仕事をしてきました。制作技術局との付き合いは長かったのですが、あくまで注文者、クレマーの立場。注文を受ける側に回ると、違う世界が見えてきます。

各種システム更新やプロジェクト。技術サイドには自明の理でも、他部局にとっては、ちんぷんかんぷん。全体像が理解できないまま、自分の利益に直結する部分にのみ反応することが多々。これまでの自分を振り返って反省することも、また多々あります。

何のための更新、変更、プロジェクトか、何のメリットがあるのか、犠牲にするもの、デメリットは何か。説明し理解を得ることの大切さと難しさを痛感します。同時に理

解を得られれば、その人は他部局内での説明者になってくれるはずです。

弊社の新素材管理システム「ミネルバ」を作り上げた時、編集の立場で関与しました。技術主導になりがちだったこの種のプロジェクトで初めて、編集局各部デスクやメディア局が毎回、議論に参加し注文、回答のキャッチボールを続けました。弊社では、かつてないことでした。出稿部→整理→校閲→メディアという紙中心だった記事のフローを出稿部→校閲→整理、メディアと転換できたのも、多メディア化をにらんで技術、編集、メディアが目的意識を共有できたからだと思っています。汗をかけた仲間は、お仕着せでない自分の言葉で語って、各部での説明役、まとめ役になりました。

弊社の制作技術局は、技術センター、工程センター、総務・品質グループに分かれています。工程系は整理にいた関係で、少しは土地勘があるのですが、技術系は闇夜にサングラスをかけて走っている。そんな気分です。局内の会議も聞きなれない横文字の横行。いちいち突っ込みを入れるわけにもいかず、ひっそり携帯辞書を引く始末。

かつて、日銀記者クラブに赴任し初めて金融調節の説明を受ける懇談に出た時を思い出しました。「オーバーナイト(無担保翌日物金利)が……」。サタデーナイトフィーバーなら聞いたことはあるけれど、何を言っているのか?記者の質問の意味は何なのか。ちんぷんかんぷんを通り越していました。オーバーナイトは銀行同士が無担保でその日の資金を調達する金利のこと。これが日銀の誘導対象であるのかどうかという哲学論争に巻き込まれました。自分は、ここでやっていけるのだろうかと不安に駆られたのを鮮明に覚えています(予感どおり金融記者としては大成しませんでした)。

新たなプロジェクト、システム更新のた

びに技術陣から説明を受ける社内各局の人たちも同じ思いをしているだろうことは想像に難くありません。部員に組織外への説明責任を求める前に、自分自身のレベルアップの必要性を痛感しています。

難しい話をお仕着せの言葉でなく、一人よがりではなく、わかりやすい自分の言葉で語り、各局との接着剤になればいいなと夢想しています。

常に逆の発想を持って

宮崎日日新聞社 取締役印刷局長

岩佐 克彦

4月にシステム統括本部長と印刷局長を拝命して六カ月。好きな温泉に行く回数が着実に増えています。霧島山系の麓、自宅から1時間のところにある「湯の元」温泉。創業は明治35年で、単純炭酸泉(サイダー泉)と鉱泉水で、水虫などの皮膚病に効果があり源泉を飲めば胃腸病にも効くと言われています。



就任すると同時に次期制作システムの更新、これに伴うCTPシステムの構築、災害時に対応するための非常用発電機の建設、広告管理システムの更新などなど営業一筋33年の私には、聞いたこともない単語や作業が雨霞のごとく降り注ぐ日々になりました。着任後は午前中システム統括本部でパソコンとシステムの勉強、午後は佐土原センターへ出向いて輪転機の構造や発送業務の勉強と学生時代にも経験しなかった勉強の日々が続いています。

営業では、プラス思考と実践、その積み重ねと組織力が数字となって評価されます。特に22年間所属した販売では、3年後、5年後の読者育成や経営安定のための販売政策を考え、施策を積み重ねて目的に近づ

いていきます。販売所とイベントを企画・遂行したり、読者獲得目標を達成して所長と酌み交わす焼酎の美味しさは格別なものでした。年に一度、県内を三つのブロックに分けて「従業員への感謝の集い」を開催しましたが、杯を傾け112販売所、2、500人の従業員と語り合う気合いと体力(肝臓力)があれば販売政策は良い方向に進んで行きます。販売部長時代には、定時店着、定時配達が当然で、店着が遅れると印刷や発送に文句を言っていた頃が今は懐かしく感じます。

営業とは真逆で、システムや印刷の世界では、不具合を予見し、起こるべくして起こるトラブルをいかに取り除けるか、その先見性がシステムの通常稼働に貢献していることは、この世界に長くいらっしゃる皆さんには、普通のことと思われるでしょう。プラスの積み上げとマイナスの削除という思考のギャップは、私にとって精神的に大きな負荷となります。通常稼働が当然、しかも毎日完成した新聞が遅滞なく発行されるということは歴史と伝統と職人技が成せるものとつくづく感じています。

7月8日の休刊日に新システムへの更新とCTPの機器設置を行いました。システム本部の部員は前日の23時から、印刷部員は午前2時からそれぞれに作業を開始、終わったのは夕方、ほぼ一昼夜、働き通しのシステム変更になりました。もちろん業者のみなさんも一緒に作業でしたが、誰一人愚痴を言わず、自分の担当部署をコツコツと丁寧に仕上げていく姿には、胸が熱くなりました。

8月末からは、広告管理システム更新に着手。県外支社と連携を取りながら作業、研修を進めています。10月には完全移行の予定です。非常用発電機は、8月22日に完成し9月11日に竣工式と火入れ式を行いました。

弊社の所在地は、宮崎駅の近くで利便性は高いのですが、標高が5.7メートルしかなく、大淀川の河川敷だったこともあって、津波に弱く液状化現象も起こりやすいと言われています。そのために佐土原センターは印刷工場というだけでなく、第二本社という位置付けで建設されました。すべてのシステム変更終了後は、本社地下に設置されている受電・発電施設の移設など非常時に向けた対応や機器類の稼働維持、社員の佐土原センターへの移動手段、非常用発電機の稼働訓練など具体的な対応をマニュアル化する作業が待っています。難解な単語とシステムの勉強も当分続きそうです。私の温泉通いも減りそうにありません。ちなみに入泉料は400円です。宮崎にお越しの際は声をかけてください。ひと風呂浴びましょう。

「想定外」は許されない

読売新聞東京本社

取締役制作局長・システム担当

五阿弥 宏安

フェイスブックの利用者は世界中で9億人に上るという。アナログ人間の私も知人から勧められて登録はしたものの、たまにチェックする程度で、「使っています」とは言い難い。



さまざまな人と知り合え、近況も簡単に分かり、すぐにコメントできるのは確かに便利だ。しかし、書き込まれる情報の多くは、グルメ自慢であったり、ペット自慢であったり、観光地巡りの感想であったり、つまりはどうでもいいようなジャンク情報である。

暇つぶしにはいいが、こうした書き込みばかりだと、つい「それがどうしたの?」と

言ってみたくなる。「いいね」ボタンも共感の押し売りのようで心地悪い。しばらく使っていないと、「最近の友達に関する情報をいくつかご紹介します」などとメッセージが届くのも、何だか癢に障る。

フェイスブックの例を持ち出すまでもなく、現代は誰もがさまざまな情報を発信する「情報の大洪水」時代である。

専門家によると、世界の情報量は2年ごとに倍増し、2011年は1・8ゼットバイトにも達したという。ゼットバイトとは10の21乗バイト。1・8ゼットバイトの情報量は、例えば120分のビデオ2,000億本に相当し、1人で24時間見続けると4,700万年かかるという。そう言われても、にわかには想像できない膨大な量である。

その一方、パソコンやスマホも含めた1日のメディア接触時間は5時間51分(2012年調査)とこの数年あまり変わっていない。生活時間の中に占めるメディア接触時間は飽和状態になってきている。

問題は、情報量が幾何級数的に増えるのに対し、人間の知識や技術は算術級数的にしか伸びないことだ。情報収集に使える時間にも限界があり、ギャップは広がるばかりである。しかも、ネット空間などに流れる情報は明らかに事実と異なったり、見方が偏り過ぎたりするものが少なくない。“玉石混交”であればまだいいが、実際は無価値な“石”ばかりで、求める“玉”は極めて少ない。

こんな時代だからこそ、国内外で生起するさまざまな出来事について迅速・的確に情報を集め、読みやすく加工し、読者に確実に届ける新聞の役割は大事だと改めて思う。新聞の地盤沈下が叫ばれて久しいが、役割の重さを新聞界自らがもっと訴える必要がある。

昨年の中日本大震災の際には、東京本社編集局総務という立場で取材の指揮にあ

たった。取材は困難を極めたが、それにも増して大変だったのが、記事を印刷し、輸送することだった。当社では東京本社管内の6つの工場がストップし、180万部の部数移行を余儀なくされた。輸送ルートも寸断され、目的地にたどり着けるかわからない。本当に新聞が発行できるのか。そんな綱渡りの状況を支え続けたのが制作局だった。どんな状況でも新聞発行を継続する。それこそが新聞社の最大の使命と痛感した次第だ。

その制作局の局長に今年6月就任した。喫緊の課題は、東京直下型地震など大規模災害への備えである。政府の原発事故調査委の畑村洋太郎委員長は最終報告書で「あり得ることは起こる。あり得ないと思うことも起こる」「見たくないものは見えない。見たいものが見える」など事故の教訓を指摘した。

今度こそ「想定外」の言葉は許されない。だが、1社で対応するのは無理がある。新聞各社の協力が不可欠だ。「順番」ということで、今年度の新聞協会技術委員会の委員長を拝命した。荷は重いが、新聞制作の技術向上とともに災害対応についても協力体制の一層の構築を図りたいと考えている。

確認作業の徹底

琉球新報社 取締役印刷局長

池間 聡

広告、編集面とも色はきちんと出ているか、カラーずれはないか、紙面の汚れはないか。印刷局にきて紙面の見方が変わってきた。それまでは紙面の構成(整理)、記事の中身など編集中心の見方だったので、明らかに紙面への接し方に変化がでてきた。弊社は日本経済新聞を



受託印刷しているので、本紙と同様、日経がきちんと刷れているかとても気になる毎日だ。

ことし6月末、印刷局長を拝命した。編集局に27年、役員室に1年余、事業局に4年いた。局でいえば4つ目。初めての印刷局勤務だ。

入社当時は鉛の活字が使われていた。工務局(後に印刷局と制作局に分割)に文選工と呼ばれていた担当者が、さかさまに彫られた活字をものすごいスピードで集め、植字工が小ゲラにしたり、大組みをしていた光景が懐かしい。彼らの職人技に魅せられたものだ。コンピューターが主役の今とはまったく違う作業現場だった。

入社1年目は校閲部に配属され、ゲラをチェックしていて手や袖にインキが付いた。同じ社屋内にあった輪転機が轟音を響かせて回っていた。4年間、整理部にいて制作部門と関わったが技術的なことは学ばずじまい。機器類や印刷の仕組みについてはほとんど知らないまま30余年が経ってしまった。

怠慢が故の勝手な思い込みもある。印刷局に来るまで輪転機は動いて当たり前と思っていた。でかい図体なので、多少のことでは故障しないと思っていたが、結構デリケートだということを知った次第。毎日、きちんと整備し、大事にしてやらないと機嫌を損ねることもある。昼勤班、夜勤班がそれぞれ付けている日々の日誌でも、必ずといっていいほど何らかの不具合や整備依頼が記入されている。丈夫で長持ちさせるためにも、メンテナンスがいかに大切かを痛感している。

新聞社なので、新聞が制作されないとその役割が果たせない。印刷は制作の最後の段階だから責任は重大だ。しかも制作するだけでなく、印刷ミスのないきれいな紙面、定時印刷、定時発送が求められる。購読者

にきちんとした紙面を時間通りに届けてはじめて新聞の役割が果たせるので、緊張の連続だ。といっても実際に現場で仕事するのは部員。私の役割は安心して仕事ができる環境をつくることだと思っている。

印刷ミスのないきれいな紙面づくり、定時印刷は印刷局の当たり前の業務。加えて損紙率の低減は印刷局に課された課題。前任の局長からも引き継いだ。

1日だけならともかく、これら業務や課題は毎日、乗り切らなければならない。同じような作業の繰り返しなので、マンネリ化して手抜きしないとも限らない。また、技術者集団なので、何年もやっていると、自己過信を招きかねない。こうしたマンネリや自己過信からくる「人為ミス」を防ぐた

め、印刷局には作業の確認項目を記したマニュアルがあるが、一つ一つのチェックを徹底するよう何度も呼び掛けている。鉄道の運転士や駅員がやっている指差し呼称は事故の未然防止に役立っていると思うので、手本にしたい。

印面をより良くするための改善策については、ベテランの次長、部長らがいるので頼りにしている。いいものは積極的に取り入れようと話している。

始業時のミーティングの際、決まって言うのは「きょうもケガのないように」。ケガがなく、病気になる人もいないことが印刷業務を円滑に遂行する上で最も大事なことだと思う。それがあってこそいい紙面ができあがると考えている。

JANPS準備部会報告

CONPT活動報告パネルを展示

広報委員会副委員長 桑江 暢也

今年3年ぶりの開催となる「JANPS2012」、会場スペースは前回と同等であるものの、出展社(団体)数は60社と過去最高を記録する事となりました。

近年の経済情勢、新聞社を取り巻く厳しい環境に鑑みると、この数字に改めてJANPS開催の意義を再確認させられる思いです。これは、会報212号で報告があった通り、より拓かれ、より活性化された展示会を目標に、新聞協会、新聞製作技術懇話会(CONPT)が一丸となって、4つの施策を掲げ活動し、これにご賛同頂いた新聞社各社、大学研究室等のご協力の賜でもあります。また新聞社の紙面デジタル化を受け、今回初登場となる出展社の存在も見逃せません。

さて、今回初の試みとして、CONPTの

活動をご来場の皆様へ知って頂こうと、CONPT広報委員会では作業部会を設置し出展準備を進めております。

1975年CONPT設立以来37年に渉る歴史やCONPTが主催・協賛する様々な催し等をパネル展示にてご報告させていただきます。

なかでも1972年第一回開催以降計100万余Kmに及ぶ旅程となったCONPT TOURの訪問都市、研修会で見学させて頂いた国内訪問社の履歴を地図に表記、さらに2008年に始まった「CONPT TOUR再会パーティー」の写真など、懐かしくまた興味深くご覧頂くことが出来るものと思っております。

会員各社は新聞製作技術の改善・向上により新聞市場が発展する事を目的に、日々新聞各社へのご支援、ご協力をさせて頂いております。

今後とも、CONPTの活動にご理解とご協力を頂ければ幸いです。

ご来場の折は、「CONPTセミナー」会場横、当展示コーナーに是非お立ち寄り下さい。

第36回国内研修会記

▷佐賀新聞社見学会◁

佐賀新聞メディア印刷にて6月15日に開催された。

今回の研修会には、事務局2名を含む総勢19名が参加。同工場は佐賀市の中心に位置し、創刊は明治17年。発行部数は約14万部を朝刊単独にて発行している。同工場での印刷は1993年11月にスタートし、2011年3月5日に約1年を要したリニューアル工事が完了。新たに更新された主な設備は、三菱重工製4×1輪転機1セット・NEC製CTP・椿本チェーン製AGV・西研製センターグリップキャリアであり、新旧の設備が融合した工場となっている。



中尾社長よりご挨拶

先ず、株式会社佐賀新聞社中尾社長様、佐賀新聞メディア印刷古賀印刷部長様、竹下主任様によるご説明を受け、上流工程も含めてご案内を頂いた。

上流の新聞制作システムについて見学した際は、記事をパソコンにて編集し、HPに掲載する「Web Up」の瞬間に立ち合せて頂いた。また、印刷について当日は見学者のため特別に子ども新聞「週刊ペーぱくん」にて実機運転して頂いた。

見学後は、懇親会を古湯温泉の「ONCRI/おんくり」にて行いました。この「ONCRI」の由来は「恩送り」感謝の連鎖を意味するそ

うです。親睦を深めさせて頂くには非常に相応しい場で有意義な時間を過ごしました。

改めて中尾社長様、古賀印刷部長様、竹下主任様を初め、工場関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

(株)KKS 木村 和憲記)

第110回技術懇談会記

CONPT-TOUR報告会開く

5月に独フランクフルトで開催したdrupa視察と独仏の新聞社、印刷工場を見学するCONPT-TOUR2012は、同月9日に日本を出発17日に無事帰国した。ツアーの成果を報告する会合が7月6日(金)、午後3時30分からプレスセンター内のレストラン・アラスカで開かれた。新聞社関係24社45名、会員社21社42名のほか講師・会友ら8名の参加があり合計95名という例年にない盛況をみせた。ツアー報告会は技術懇談会として行われているもので、今回の関心の高さは110回目となる記念会合に花を添えたかたち。

村松哲クラブ委員長の進行で始まり、講師の一番手は林克美氏(インテック)が務め、drupaの全容と訪問した独フランクフルター・アルゲマイネ紙、仏フィガロ紙の電子メディア戦略を説明。次いで加藤謙一氏(日経)が下流部門についてdrupaの展示内容、独仏の新聞印刷工場の様子を報告した。最後に井上秋男氏(メディアテクノス)が、今回のdrupaをデジタル印刷時代の本格幕開けと位置付け、予定時間をオーバーし報告会を締めた。

その後同じアラスカで懇親会を開き、70名以上の方がグラスを片手に和気あいあい、これからの新聞製作技術を議論した。

(事務局)

CONPT 日誌

- 7月11日(水)第9回JANPS準備部会
(出席9名)
- 7月24日(火)第2回パネル作業部会
(出席7名)
- 7月30日(月)第10回JANPS準備部会
(出席10名)
- 8月23日(木)第2回JANPセミナー検討部
会(出席7名)
- 9月6日(木)第3回パネル作業部会
(出席6名)
- 9月11日(火)評議員会並びに第9回
JANPS運営委員会
(出席9名、新聞協会2名、
科学技術館3名)
第2回JANPS2012全体会議
(於日本新聞協会8階会議室、
出席87名)
- 9月13日(木)クラブ委員会(出席10名)
- 9月18日(火)企画委員会(出席9名)
- 9月20日(木)広報委員会(出席9名)

会員消息

■担当者変更

- * NECエンジニアリング(株)(9月12日付)
[新] 本田 義行氏
(インターネットターミナル事業部事業推進部主任)
[旧] 佐藤 克英氏(インターネットターミ

ナル事業部事業推進部マネージャー)

- * 日本アイ・ビー・エム(株)(9月11日付)
[新] 平 昌浩氏(エンタープライズ営業統
括本部通信・メディア・公益営業本部
第一営業部部長)
[旧] 岡田 和久氏(通信・メディア・公益
サービス事業部第一営業部担当部長)

■所在地変更

- * 三菱製紙(株)(7月17日付)
(〒130-0026)
東京都墨田区両国2-10-14
両国シティコア
(TEL: 03-5600-1475)
* 西研グラフィックス(株)・東京支社
(7月17日付)
東京都台東区台東4-29-15
上野永谷タウンプラザ213号室
(TEL: 03-5812-3681)

■社名並びに所在地変更

- * 富士フイルムグラフィックシステムズ(株)
は、10月1日より富士フイルムグローバル
グラフィックシステムズ(株)に社名を変更し
ました。
<新住所>
(〒106-0031)東京都港区西麻布2-26-30
富士フイルム西麻布ビル
(TEL: 03-6419-0421)
* ニチロ工業(株)は、10月1日よりストラパ
ック(株)に社名を変更しました。

CONPTツアー合同再会パーティー開催のご案内 —JANPS 第2日、28日(水)午後5時から—

今回も11月27日(火)から開催されるJANPSの会期にあわせ、CONPTツアー参加者による「第3回CONPTツアー合同再会パーティー」を下記の要領にて開催致します。

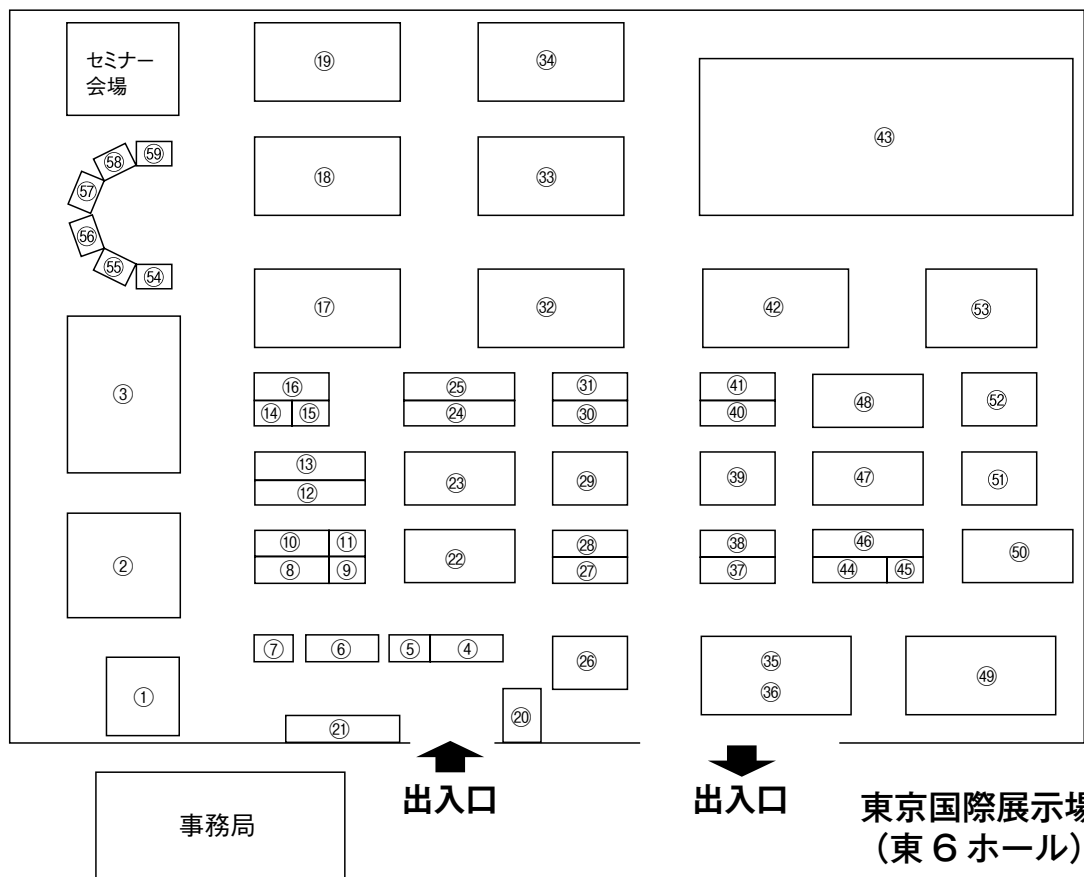
万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

なお、案内状は、10月中旬発送予定です。

開催日時	平成24年11月28日(水) 午後5時～7時
場所	THE BIG LOUNGE (ビッグサイト北コンコースレストラン街)
参加費	5,000円
お問合せ先	日本新聞製作技術懇話会 Tel: 03-3503-3829

JANPS 2012 会場 見取図

JAPAN NEWSPAPER PRODUCTION SHOW



①	日本新聞協会
②	東芝ソリューション
③	富士通
④	日経統合システム
⑤	日本経済新聞社
⑥	読売新聞社
⑦	毎日新聞社
⑧	田中電気
⑨	大日本印刷
⑩	ビジュアル・プロセッシング・ジャパン
⑪	CCI ジャパン
⑫	日本アイ・ビー・エム
⑬	イワタ
⑭	モリサワ
⑮	モトヤ
⑯	セイコーアイ・インフォテック
⑰	日本電気
⑱	サカタインクス
⑲	インテック (サカタインクスブース内に出演)
⑳	三菱重工印刷紙工機械
㉑	産業経済新聞社
㉒	朝日新聞社
㉓	コニカミノルタ ビジネスソリューションズ
㉔	クロスデザイン
㉕	日本新聞インキ
㉖	金陽社
㉗	西研グラフィックス
㉘	日本アグファ・ゲバルト
㉙	岡本化学工業
㉚	三菱製紙

㉛	コスモテック
㉜	コダック
㉝	DIC グラフィックス
㉞	富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ
㉟	方正
㊱	東洋インキ
㊲	ニッカ
㊳	フジオ産業
㊴	プロスパークリエイティブ
㊵	清水製作
㊶	クオード・テック・インク 日本支店
㊷	東洋電機
㊸	パナソニック SS インフラシステム
㊹	東京機械製作所
㊺	明和ゴム工業
㊻	ジック
㊼	東京インキ
㊽	日本ボールドウィン
㊾	ゴスグラフィックシステムズジャパン
㊿	ストラバック (旧: ニチロ工業)
㊿	椿本チエイン
㊿	第一工業
㊿	東和電気工業
㊿	KKS
㊿	東京電機大学エルゴノミクスデザイン研究室
㊿	千葉大学大学院 融合科学研究科・北村研究室
㊿	千葉大学大学院 融合科学研究科・小林・青木・今泉研究室
㊿	千葉大学大学院 融合科学研究科・小関研究室
㊿	日本プリンティングアカデミー
㊿	東京工芸大学 工学部メディア画像学科